

令和2年度 事業計画書  
(2020年4月1日～2021年3月31日まで)

1. アーカイブ事業関連

グラフィックデザイン、グラフィックアート等に関する作品や資料の収集、保存及びその公開を行なう。また、活動に関わる諸テーマについて、独自で調査、研究を実施すると共に、国内外機関・個人との共同研究等も行なう。【定款 第4条(1)、(3)、(6)】

- ・コレクション・データベースの精緻化と利用促進を図る。
- ・ポスター高精細デジタル画像化は、将来的にポスターアーカイブの全作品のデータ化を目標に継続的に進める。福田繁雄氏、田中一光氏等を行なう。
- ・ポスターアーカイブは、寄贈表明いただいた作家からの寄贈を受け入れる。
- ・将来的にアーカイブセンターとして実現すべき機能・仕様を引続き実証・検討する。

(1) 田中一光アーカイブ

コレクション・データベースのメタデータの精緻化を進める。令和2年度は書類の保存用資材の改善とデジタル化を進める予定。

(2) ポスターアーカイブ

国内外の現代グラフィックデザインの秀作を、次世代に文化資産として残すための収集活動を継続する。寄贈受け入れ予定作家は、上條喬久氏、栗津潔氏等。

現在、国内 119 作家、海外 117 作家、計 236 作家、19,749 作品を収蔵している。

また、田中一光アーカイブ、永井一正アーカイブ、福田繁雄アーカイブのポスター寄託品を、海外をはじめとする他美術館へ寄贈する事業は、令和2年度は、西安建築科技大学(中国)、SPACE 27(香港)への寄贈を行う予定。

(3) タイラーグラフィックス・アーカイブ

タイラーグラフィックスのコレクションによる収蔵品展をCCGAにて1回開催し、他美術館への作品の貸し出しも行う。

(4) ポスター高精細デジタル画像化

撮影、画像合成、専用撮影機材などを活用してポスター作品のデジタル保存(400dpi/解像度、800Mb程度/B1 サイズ)を進める。作業の進行は、優先順位や作業負荷、コストを考慮の上推進する。

#### (5) 作品データベースの活用

世界的に進む文化資源のデジタルアーカイブ化の動向を踏まえ、「DNP文化振興財団コレクション・データベース」の精緻化と利用の促進をはかる。

## 2. 展示事業関連

グラフィックデザイン、グラフィックアート等を中心とする優れた作品等の展示活動を行なう。展示企画内容により、必要に応じて国内外機関、個人との共同研究等を行ない、また、展示施設の管理運営を行なう。【定款 第4条(2)、(6)】

東京都 ggg、京都市 ddd、須賀川市 CCGA の3施設で展覧会を開催する。

- ・4ページに記載した予定表に従って展覧会を開催する。
- ・gggの展覧会開催スケジュールは、年7回開催とし、企画展ごとの効果的な開催期間を検証する。
- ・dddは、年4回の展覧会開催に加え、エリア内の美術デザイン系大学と連携した大学共催展を実施する。また、周辺地域での認知拡大を図り、広報活動も注力して継続する。
- ・CCGA は、現代版画の企画展に加え、DNP グラフィックデザイン・アーカイブおよびタイラーグラフィックス・アーカイブコレクションによる収蔵品展を開催する。

(1) 令和2年度は、オリンピックパラリンピックイヤーということもあり、gggでは7月に特別展を開催する。gggとdddの会期日数、期間については、これまでの実績を踏まえ効果的に展覧会を開催する。

「TDC展」「ADC展」といった他団体との定例化した連携展は、集中的な来場促進を図り、約20日の開催期間とする。日本人作家の個展、海外作家の個展、テーマ展などは、40日間前後の開催とする。

なお、京都dddギャラリーの休館日については、6月開始の展覧会からこれまでの日曜日に加え、月曜日も休館とする。

#### (2) dddの大学連携企画

大学や専門学校が多いといった京都の土地柄を生かし、美術デザイン系の学校と連携を図るため、各教育機関で実施されているデザイン教育のカリキュラムを紹介する展覧会を開催する。

京都精華大学共催

期間:2020年11月7日~12月19日(37日間)予定

タイトル:模様プロジェクト(仮称)

#### (3) CCGAで展覧会に合わせて作家によるトークイベントを開催

6月13日(土)に、出品作家によるギャラリートークを開催

(4) ggg、ddd については挨拶文や解説等について日本語、英語、中国語、韓国語についての対応を引き続きおこなう。

・ggg(銀座)展覧会事業 (予定)

企画展	会期
第 379 回 TDC 2020	4/3(金)～4/28(火)
第 380 回 佐藤卓展	5/14(木)～7/11(土)
特別展 オリンピック・ランゲージ展	7/21(火)～8/29(土)
第 381 回 石岡瑛子展	9/7(月)～10/21(水)
第 382 回 日本のアートディレクション 2020(ADC)	10/28(水)～11/21(土)
第 383 回 ソール・スタインバーグ展 (アメリカ)	12/2(水)～1/25(月)
第 384 回 葛西薫展	2/3(水)～3/25(木)

・ddd(京都)展覧会事業 (予定)

企画展	会期
第 225 回 コントラポイント展 (ggg より巡回)	4/4(土)～6/13(土)
第 226 回 ヘルムート・シュミット展	6/27(土)～8/22(土)
第 227 回 文字を作る仕事:鳥海修と字游工房展	9/5(土)～10/24(土)
第 228 回 京都精華大学共催展模様プロジェクト(仮称)	11/7(土)～12/19(土)
第 229 回 GRAPHIC WEST 9 スルキ&ミン展(仮称)	1/16(土)～3/19(金)

・CCGA(福島)展覧会事業 (予定)

企画展	会期
第 80 回 食のグラフィックデザイン展	3/1(日)～6/7(日)
第 81 回 共鳴する刻— <sup>しるし</sup> 木口木版画の現在地展	6/13(土)～9/6(日)
第 82 回 タイラーグラフィックス・アーカイブコレクション展 Vol.33	9/12(土)～12/20(日)
冬季休館	12/21(月)～2/28(日)
所蔵品展 DNP グラフィックデザイン・アーカイブコレクシ ョンより	3/2(火)～

ggg、ddd は入場無料とする。CCGA の入場料は、有料(一般 300 円、学生 200 円)とする。

但し、次の方々は無料とする。—小学生以下と 65 歳以上の方、及び障がい者手帳をお持ちの方、地域の教育関係者(教員、学生)の教育を目的とした団体、オープニングイベント参加者、有料の講演会、映画会等への参加者

### 3. 教育・普及事業関連

グラフィックデザイン、グラフィックアート等に関するセミナーの開催、刊行物発行やインターネット等を通じた情報提供等の教育・普及活動の実施。【定款 第4条(4)】  
グラフィックに関する知識・関心を、一般の方々に広げることが目的に、講演会、対談、ワークショップ、図書等の刊行、インターネットを通じた情報提供を行なう。

- ・gggBooks は1点、その他図録4点を発行予定。アニュアルレポートは、8月に発行予定とする。
- ・gggBooks の電子書籍版の発行も継続し、電子図書館での利用を促進する。
- ・ギャラリートークは、コンテンツによって無料動画をネット配信し、来場できなかった不特定多数の方々が広く参加できるものとする。
- ・須賀川CCGAにおいて、地元の版画文化振興と連携して版画工房ワークショップ、版画工房の一般開放、FaceBookサイトの運営を継続し、活性化を目指す。

#### ・図書の刊行:

展覧会と連動し、作家の作品集「gggBooks」を1点(発行予定作家:ソール・スタインバーグ)を発行する。

令和元年から開始した「プリモアート(高精細プリント技法)」を利用した展覧会図録を4点(発行予定作家:佐藤卓、石岡瑛子、ソール・スタインバーグ、葛西薫)を発行する。

#### ・アニュアルレポート発行:

「アニュアルレポート 2019」を8月に発行し、翌年度刊行する「アニュアルレポート 2020」の企画・編集を開始する。

#### ・ギャラリートーク:

ggg(銀座)で8回、ddd(京都)で7回、CCGAで1回開催予定。

また、セミナーは、原則インターネットを通じて不特定多数の人に向けて配信する。

dddでは、ギャラリーの認知拡大にもつなげるために、外部(大学など)の会場でセミナーを開催する。

・ホームページ:

不特定多数の方に向けて、新鮮な情報発信を行う。インターネットを活用した展覧会の予告、開催状況、ギャラリートークの予告、電子書籍などの告知、研究助成プログラムの告知・申込み・成果発表などを行う。

中国語、韓国語についても、段階的に対応を図るべく、システム改修をおこなう。

・版画工房ワークショップ:

CCGA版画工房ワークショップは、7月に展覧会企画と連動した木口木版講座を開催予定。

#### 4. 国際交流事業関連

グラフィックデザイン、グラフィックアート等を中心とした国際交流を行う。【定款 第4条(5)】

・gggにて2回、dddにて3回、海外作家および海外団体の展覧会を開催し、海外のグラフィックデザイン事情を紹介する。海外作家、美術館学芸員などの講演会を、展覧会活動と連動して開催する。

・海外での日本のグラフィック展への協力をおこなう。

・世界のトップデザイナーによって構成される国際グラフィック連盟(Alliance Graphic International)の日本事務局のサポートを継続し、海外作家との情報交換を積極的におこなう。

・コントラプント展(4月ddd/デンマーク)、ヘルムート・シュミット展(6月ddd/スイス)、オリンピック・ランゲージ展(7月ggg/スイス)、ソール・スタインバーグ展(12月ggg/アメリカ)、GRAPHIC WEST 9: スルキ&ミン展(1月ddd/韓国)の企画展を開催し、各国大使館や美術館などとの文化交流を促進する。

・日本: デッサンとデザイン展 明治期の絵本からコンテンポラリーのポスターへ(6月/イタリア)、永井一正展(10月頃/香港)などに協力をおこなう。

・AGI(国際グラフィック連盟)の総会 2020(9月/開催地オーストラリア<シドニー>)に参加し、世界各国作家との交流、およびグラフィックデザイン界の情報収集を行う。

## 5. 研究助成事業関連

グラフィックデザイン、グラフィックアート等を中心とした芸術文化活動に対する顕彰及び助成。【定款 第4条(7)】

グラフィックデザイン、グラフィックアートを対象としたコミュニケーション、印刷複製、表現の理論、技術、知識、歴史などのテーマに対し、助成をおこなう。また、CCGA（須賀川市）周辺で開催されるグラフィックアートに関連する文化事業に対し、従来から行ってきた協賛を継続する。

A部門：「グラフィックデザイン、グラフィックアート全般をテーマとする学術研究」、

B部門：「グラフィック文化に関するアーカイブをテーマとする研究」

の研究テーマに対して助成をおこなう。

令和2年度より研究助成対象期間をわかりやすいものにするため、年単位(1月1日～12月31日、最大2年間)に変更する。

10月開催予定の審査委員会で助成対象テーマを10件程度選考する。また、継続助成を希望するテーマについても審査する。

助成テーマの募集は、インターネットやチラシなどによって広く行い、国内外の研究者による研究を対象とする。

### スケジュール

5月 令和2年度研究助成テーマ募集スタート

6月 応募締め切り

9月 審査委員会の開催

採択テーマの発表(発表後1年または2年で成果の提出)

10月 令和2年度採択者発表

11月 研究成果の報告会兼交流会 学術研究紀要 Vol.3 刊行

また、令和元年度末に助成期間満了をむかえる研究テーマについての成果発表を、一部日英2か国語表記で、ホームページと研究紀要の発行を通じて行う。

なお、昨年度より開催している「研究助成の成果報告会」が研究者同士の交流を図る機会として好評だったため、引き続き開催する。

さらにインターネットを活用した活性化の手法なども引き続き検討する。

以上